ンゴを区別できて食べ物とわかっていなければ、食べる行為をみせる）。ものの特性の理解が深まれば、そのものの名を聴覚的にも伝えるべきです（その時理解されなくても）。

「素朴概念」（英語はnaive conception、「素朴物理学」とも言われる）も言語習得前に獲得される重要な知的機能です。その内容は、物は視界から消えても存在し続ける（永続性の法則）、ひとつの物体が別の物体をすり抜けることはない（連続性の法則）、物は塊としてまとまっている（凝集性の法則）、離れている物どうしは作用しないが、接触するとお互いに作用を及ぼす（接触の法則）、支えがなければ物体は下に落ちる（重力の法則）ということです。具体的にはこんなことです。テーブルに置かれたリンゴを布でおおって見えなくなっても、リンゴはそこにあり続ける。テーブル上のリンゴを手で押せば転がる。そして、テーブルの端を越えれば床に落ちる。そして、床にぶつかれば、リンゴは壊れる。これらは誰からも直接教わることはなく、自己の経験からを学ぶものです。4ヵ月の子は、いないいないバァーを喜ぶようになります。その喜ぶ理由は、隠されたもの（顔）が存在し続けることを発見し再確認することにあると私は考えます。このように発見することは楽しいことであり、この楽しさが学習行為の原動力になるのでしょう。8ヵ月～12ヵ月の子では、同じ場所（Aの場所）に隠れているモノを探すことを何度か繰り返した後では、そのモノを別場所（Bの場所）に移して隠すことを見せていても、元の場所（Aの場所）を探すとされています（ピアジェのA-not-B error）。隠されたモノを発見することを繰り返すと、モノの居場所の認識が固定され修正不能になってしまうということです。これは、健常者では当たり前のことが、言語習得直前の子にとっても当たり前でない例です。素朴概念を学ばせるには、その子の習得している概念レベルを察して、その一歩先を示す物理現象を経験させるべきです。

他者を知ることは乳児期の知的発達の中でも大きな領域です。生後2ヵ月で、母に対し微笑み返しをするようになります。この時、心を通わせる保護的な他者の存在を知ったことになります。その後、この他者（母）は自己と同じ価値観を持つ存在であるとの認識を深めていきます。そして9ヵ月になると、外界のものを指さし、この他者（母）と注意を共有する行為を行います（三項関係）。これは、そのものに対するその社会の共通認識を受け入れる契機になります。こうして、知識が飛躍的に増えることになります（言語もそうだとするのが、トマセロの説です）。そうすると、その子が心を通わせる人とともに新しい経験することは、良い学びの機会になります。この関係のもとに、他者の認識を広げていくべきでしょう。

生後8ヵ月で、ひとみしりをするようになります。外界には保護的な存在（母）以外に多数の同種の他者（ヒト）がいます。この頃になると、それを区別できるようになってきたということです。個々のヒトの特性を付与して、外界のヒトの知識を急速に増やしていきます。そのためには、そこで人と人が何をしているか、その結果その関係がどう変わったかをたくさん見聞きする必要があります。この時配慮すべきは、子どもは大人より子どもに関心を持ちやすいということです。歩けるようになった2歳以後の子たちは、「おかあさんといっしょ」（NHK）の歌と踊りの世界はたいてい大好きです。子どもたちにとって、そこに登場する子たちやキャラクターは自分と同種の存在として親近感を持つのでしょう。当然、そこから多くのことを学ぶはずです。言語習得前の1歳未満児にこれがそのまま当てはまらないかもしれませんが、大人よりは自分と年齢の近い子どもに関心を持ちやすいとしていいのではないでしょうか。他者理解を促すために、子どもたちとの人間関係を多く積ませることは間違ってはいないと思います。

そうすると、その発達段階が1歳未満の重症心身障害児には、次のようなやり方が現実的かと思います。素朴概念を学ぶ設定に、もの特性を視覚的聴覚的に学ぶ課題を重ね、それを行なうヒト（職員）の意図をみせる。これを同年齢の子も同時に経験し、その子の反応を見聞きさせる。

こんなふうに、重症心身障害小児の知的発達を促したらいいのではないかと今考えています。

横地分類

「移動機能」、「知的発達」、「特記事項」の３項目で分類し、以下のように表記する。

例：A1−C，B2，D2−U，B5−B，C4−D

〈知的発達〉

E6	E5	E4	E3	E2	E1	簡単な計算可
D6	D5	D4	D3	D2	D1	簡単な文字・数字の理解可
C6	C5	C4	C3	C2	C1	簡単な色・数の理解可
B6	B5	B4	B3	B2	B1	簡単な言語理解可
A6	A5	A4	A3	A2	A1	言語理解不可
戸外歩行可	室内歩行可	室内移動可	座位保持可	寝返り可	寝返り不可	

〈移動機能〉

<特記事項>

C：有意な眼瞼運動なし

B：盲

D：難聴

U：両上肢機能全廃

TLS：完全閉じ込め状態